

平成 27 年度ナショナルバイオリソースプロジェクト 成果報告書（公開）

補助事業	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
代表機関管理者 (所属機関・氏名)	生理学研究所統合生理研究系生体システム研究部門 教授 南部 篤
補助事業課題名	課題名 ライフサイエンス研究用ニホンザルの飼育・繁殖・供給

1. 補助事業の目的

ライフサイエンス研究用ニホンザルの飼育・繁殖・供給を目的とする。国内の研究機関へニホンザルを提供し、ニホンザルを用いた研究の推進に貢献する。

2. 補助事業の概要

[繁殖・育成事業]

- 1) 年間 80～90 頭を生産して 70 頭を出荷する体制への移行について検討する。
- 2) 定期的検査によりリソースの微生物学的質を向上させる。SRV 対策を徹底することで SRV のフリー化を目指す。霊長研の繁殖個体群のみならず、生理研の繁殖個体群、出荷個体群についても、霊長研の検査室にて実施する。さらに、生理研のコロニーにおける安全性をより精度の高い検査方法を用いて確認することとした。
- 3) 個々の研究者のニーズを定期的にリサーチして、研究目的に適した個体をより一層生産するための方策を検討する。
- 4) 遺伝的有用性のある個体の探索等を開始する。
- 5) 高品質な個体を提供するために高感度 SRV 検査系を作製する。

[リソース提供事業]

- 1) 研究用動物として微生物学的に安全なニホンザルを分担機関から最大 80 頭（3 才 60 頭、2 才 20 頭）を出荷する（80 頭のうち、3 才 30 頭は前年度積み残しが 23 頭、多年度申請分として 7 頭が出荷済み）。
- 2) 研究者ニーズに応じた個体の提供に努める。
- 3) 試験的運用であるが組織試料提供を実施する。
- 4) 本事業で供給するサルの出荷・検疫業務を霊長類研究所で実施する。
- 5) ユーザーの希望する時期に供給が可能な体制を築いて行く。

[プロジェクトの総合的推進]

- 1) プロジェクトの円滑な運営のため、運営委員会、供給検討委員会、疾病検討委員会を開催する。
- 2) ニホンザルを使用している研究者コミュニティとの連携協力、情報伝達と情報交

換を進めるため、ニュースレターの発行やホームページでの告知、関連学会でのポスター展示、意見交換会を開催する。

- 3) プロジェクトの意義や動物実験の意義を啓発するために公開シンポジウムを開催するとともに、ホームページ等で広報活動を活発に行う。
- 4) 実験動物としてのニホンザルの情報を収集・公開する。
- 5) 事前講習会や実習を開催して、ニホンザル提供を希望する研究者に対して教育と指導を行う。
- 6) 新たなユーザー開発のため、広報活動と同時に啓蒙活動等も実施する。

3. 補助事業の成果（平成 27 年度）

[繁殖・育成事業]

- 1) 年間 80～90 頭を生産し 70 頭を出荷する体制へ移行するために、平成 25 年度末から繁殖事業を京都大学霊長類研究所のみとした。
- 2) 疾病検討委員会と霊長類研究所の協力の下で生理学研究所繁殖コロニーにおける飼育管理の改善策を検討した。
- 3) 研究目的に適した個体をより一層生産するための方策を検討するために意見交換会等を実施した。

[リソース提供事業]

- 1) 研究用動物として微生物学的に安全なニホンザルを 79 頭出荷した。
- 2) 提供の募集と申請書の取り纏め、提供先との打ち合わせを行った。
- 3) 死亡個体等を利用して、組織試料提供を実施した。
- 4) 高品質な個体を提供するために高感度 SRV 検査系を作製した。

[プロジェクトの総合的推進]

- 1) 運営委員会の開催は、事業計画のための議論を 1 回、全体的な進捗状況、計画の達成状況について 1 回、年度の総括のための 1 回を含めて年 4 回（メール会議 1 回を含む）を行った。供給検討委員会はリソース提供応募書類を審議するために、1 回開催した。疾病検討委員会については、疾病の原因究明および感染防護、その他疾病全般に関する事項を調査審議するために適宜開催した。
- 2) 研究者コミュニティとの連携協力、情報の共有を図るために使用者会議を開催すると共に情報伝達のためにホームページを活用した。
- 3) 事前教習会を開催して、ニホンザル提供を希望する研究者に対して教育と指導を行った。また、臨床系研究者は、東京や大阪で開催する通常の講習会に参加することが困難であり、申請資格である講習会受講の機会に恵まれなかった。新たな利用者を開発するため、大学医学部等に出張して講習会を開催した。